まんまでえーやん ④

定時制・湊川高校の春

チーム権田 ㊤

サポートが生んだ「温かな波動」

今春、3年生になる権田祐也君(18)はちょっとした有名人だ。本人はきっと不本意だろうけど。

重度脳性まひで車いすに乗っている。相手の話す言葉は分かっているが、言葉を発することはできない。それでも淡路市の自宅からおよそ1時間かけて通学している。

「みんなと一緒に学びたい」と夜間定時制の神戸市立楠高校を受験したのは3年前。ところが、定員内にもかかわらず2年連続で不合格になった。

理由は《その高校の教育を受けるに足る能力・適性等を総合的に判定》。

なんか、よく分からないけれど。

それはさておき、定員割れで再募集していた湊川高校を受験すると合格した。ようやく春をつかんだときは、多くの仲間が集まって大喜び。「さすがや！湊川」の声も上がった。

2013年に障害者差別解消法ができてから、学校側が医療的ケアなどの配慮をし、県立高校に通う、県内初のケースになった。

緊張ぎみの学校を尻目に、毎日ハイテンションで「学校に行くのが楽しくて仕方ない」高校生になっていく。

久しぶりに会って驚いた。えっ？ 茶髪？ ツンツンしてるけど？

「だって、染めてくれって目で訴えてきて。お父さんと2人がかりでお風呂場で。満足そうに何度も鏡見てにやにやして、眉毛も整えろって。めっちゃ目でアピール」と母親の由記子さん。

苦笑いしつつもうれしそうだ。息子はいま、あれだけ夢見た高校生活を謳歌(おうか)しているのだから。この2年間、疲労の微熱で2日欠席、2日早退のみ。ほぼ皆勤。

支えるのは学習と介助の支援員、看護師、特別支援のコーディネーター〝チーム権田〟の計12人。ローテーションを組み、毎日3人が夕方集合する。

学校側も協力を惜しまない。支援体制を整えるまで、SNSで募集したり、専用の控室にエアコンを設置したり。

そんな温かな波動は生徒の心にもゆるやかに流れ込んでいったようだ。

「一見、やんちゃでも、祐也にみんな優しい。湊川は安心して預けられます」と由記子さん。

ちなみに湊川高校に校則はない。服装、マニキュア、ピアスも自由。緑やピンクの頭髪の生徒もいる。

水畑哲也校長(60)＝3月末で退任＝は言った。

「大事なのは、自尊感情と思いやり、夢や志を育むこと。それ以外は枝葉末節です」

（鈴木久仁子）

合格の喜びを支援者と分かち合う権田君と母の由記子さん（後方）＝2019年3月28日、神戸市長田区寺池町1